

## 環境共生生物学特論Ⅱ (2単位)

担当者氏名 榎村修生

## ◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

前期環境共生生物学特論Ⅰの授業において、それぞれのテーマについて教科書等で知識を得た内容をもとに、後期はその専門に関する研究論文(英文)を集め、その内容をまとめ発表と討論をおこなう。

## ◆取り扱う領域(キーワードで記載)

低酸素環境 \_\_\_\_\_ 暑熱環境 \_\_\_\_\_ 寒冷環境 \_\_\_\_\_ 高齢化社会 \_\_\_\_\_  
生活習慣病 \_\_\_\_\_

## ◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	低酸素環境曝露に関する研究(第1週から4週)	・急性および慢性低酸素曝露による適応・不適応反応のメカニズムに関する研究論文について討論する。	各項目における論文の収集と英文論文の翻訳
2	暑熱曝露に関する研究(第5週から7週)	・急性および慢性暑熱曝露による適応・不適応反応のメカニズムに関する研究論文について討論する。	
3	寒冷曝露に関する研究(第8週から10週)	・急性および慢性寒冷曝露による適応・不適応反応のメカニズムに関する研究論文について討論する。	
4	生活習慣病に関する研究(第11週から13週)	・生活習慣病およびその予防に関する研究論文、凍傷の予防に関する研究論文について討論する。	
5	高齢者の体力・運動能力(第13週から15週)	・高齢者の寝たきり予防に関する研究論文について討論する。	

## ◆教科書及び資料(授業前に読んでおくべき本・資料)

高所/榎村修生(分担)/NAP(2000年)、熱帯農業と国際協力/榎村修生(分担)/筑波書房(2006年)、新運動生理学/榎村修生(分担)/真興交易(2001年)、運動療法と運動処方/佐藤祐造/文光堂(2008年)

## ◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

関連論文をその都度提示する。

## ◆評価の方法(レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

レポートで100%評価する。

## ◆オフィスアワー

毎週水・木曜日午後から、榎村研究室で受け付ける。メールでも可能(kasimura@nodai.ac.jp)

## ◆その他受講上の注意事項